校長室だより～燦燦～ №１４７

螺旋的発展

2020.7.3

今、世の中がどのような方向に進んでいるのかを見つめられる能力がほしいと思うことがある。世の中の変化をしっかりと見つめるためには、そのビジョンのさらに先にある「思想」というものを持つ必要があると、どこかで教わった。

その思想を教えてくれるものにヘーゲルの弁証法というものがある。その中に、「事物の螺旋的発展」という法則がある。

都会の慌ただしい雰囲気や毎日の職場の往復だけになってしまっている生活からのストレスによって、心身に何らかの不調を感じている人は少なくはないだろう。脱サラして地方で農業を始めたり、田舎でゆっくり過ごしたりするのもわるくない、自給自足に挑戦してみたいなどと考える人もいることだろう。

今、地方への移住や働き方改革が何かと話題である。実は、ほとんどの時代のトレンドなるものは、タイムリープあるいはループしている状態にある。それを発見したのが、１９世紀のドイツ観念論を代表する哲学者であるヘーゲルである。

事物の螺旋的発展とは「あらゆる物事は螺旋階段を登っていくように発展していく」と捉えられる。螺旋階段を登る人を想像してみる。横から見ると、上に上がっていくことがわかる。進歩発展していくように見える。しかし、上から見てみると、ぐるっと回って元に戻ってくるように見える。古く懐かしいものが戻ってくると考える。上から見ると古く懐かしいものが戻ってくるが、横から見ると進歩していることがわかる。

単なる哲学のような話かもしれないが、このような螺旋的発展は、私たちの身近なところで起こっている。私たちが普段毎日のようにコミュニケーションをとるために使っている「メール」などは良い例である。昔は友人と連絡をとる際には、家に置いてある電話を使っていた。もっと昔であれば、ハガキや手紙などの郵便物で連絡をとっていた。

それがぐるっと回ってきて、今では世界中一瞬にして何千通も、さらには地球の裏側にまで一瞬にしてコミュニケーションができるようになっている。ただし、古く懐かしい文章によるコミュニケーションが戻ってきている。

このような法則を覚えることで、今後新しいビジネスモデルを発案することができるようになるかもしれない。確かに、世の中では、ネット革命やＩＴ革命によって、急速に進歩・発展していく社会を見ていると、一方で復活・復古の現象が目につく。様々な復活・復古が起こり、懐かしさを感じさせるものが数多く生まれてきている。これらは、螺旋階段を登り、あたかも元の位置に戻ったと思っても、実は、必ず一段高い位置に登っているのである。すなわち、古く懐かしいものが、新たな価値を伴って復活してくる。

ヘーゲルが提唱した事物の螺旋的発展というのは、ある物事は一通り変化・進化し尽くすと原点に戻るようになっている。つまり、発展とは、視点を変えれば原点回帰であると説いている。先へ先への目先だけでなく、ときには視点を変えて後ろを振り返り、原点回帰してみるのも未来をデザインすることにつながる大きなヒントの種になるかもしれない。

教育も又然りである。主体的・対話的で深い学びというが、昔から優れた教員の授業は、そうであった。そこには、深い学びが存在していた。基本は変わっていないが、主体的な学びと対話的な学びの視点から、今一度授業を見つめ直すことが求められている。